



## 〇造形

「こどもと造形」という教科書が職員室にあります。私はかつて小・中学校勤務が中心でしたが(何回もお知らせしてすみません)、そのときに担当した教科である美術・図工は造形と表現されることもあります。幼稚園・保育園でも造形ということばはよく使われます。造形教育研究会という研修の任意団体があります。幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校そして大学までの校種が連携して子どもの造形を考える会です。実は山口県はほぼすべての校種が連携していますが、全国的にはそうでもないところもあるようです。ある意味自慢できる部分ですね。毎年県立美術館等でこの会が主催して県内の子どもたちの作品を大々的に展示しています。一月頃の開催ですのでよろしければご覧になられるとよいと思います。

さてその教科書を開いてみて、あらためて少し勉強し直してみようと思いました。まずは学生時代に会った名前がいろいろと出てきます。教育がどのような人々の努力によって現在のものに出来上がっていったのかという歴史が分かります。(もちろん本質は変わらないにしても将来的にはまだまだ改善されていくかもしれません。)

私は歴史にそれほど興味はありませんでしたが、よりよいものを目指した先駆者たちは尊敬します。歴史の勉強としてはそれぞれの偉業を成し遂げた代表者の名前を覚えるようになりますが、中・高校生のころの丸暗記作業はちょっと苦痛でしたね。年を重ねて再び出会う歴史上の人物への、私の認識は若いころに比べるとかなり変わりました。一言でいうと今は歴史が好きですね。

代表者の名前などは暗記したりしましたので、再び出会うと懐かしい感じもします。今思うことは、代表者があることを成し遂げるために、ともに協力し苦労し勉強した人々＝教科書に名前が出てこない人々のことです。世界記録を達成する個人競技のスポーツ選手にしても、サポートする人々・所属・環境・そしてその国の考え方までもかかわってきます。決して本人一人だけの記録ではないということに気づきます。

「こどもと造形」に関してもさまざまな人々が研究・実践してきた財産があります。そういうことを教科書を見ていると感じますね。前号でも記述しましたが、子どもから大人はどのように見えているのか、絵を描いているときどんなことを考えているのか、遊んでいるときの心理状況はどのようなものなのかということなどを保育・教育に携わる者は常に考え研究しています。私たちは皆子ども時代を経験しているはずなのに忘れてしまったことがほとんどです。覚えていれば子どものよりよい接し方はすぐに分かりそうですが、逆に「覚えていたらとてもやってられない」かもしれませんね。

成長の速度や得意不得意は皆異なり、それぞれの個性につながりますが、共通する成長過程はありますのでその点についてはしっかり学習しておくことが大切です。そういった基本(本質)は昔も今も将来も変わらないはずです。

ちょっと論点がまとまりませんでした。

## 自校自賛

前回のつづきです。

サンタクロースやトナカイも出演です。

